



遠軽町図書館

42-3632

NO. 113

12月4日号

新着速報



あおぎり

『梧桐に眠る』

澤田 瞳子

- ・8世紀の奈良、遣唐使に伴われて唐の長安からやってきた袁晋卿。孤独な生活を余儀なくされていた彼は…。

『三頭の蝶の道』

山田 詠美

- ・女性作家が「女流」と呼ばれた時代、文学に身を捧げた女たちの創作の業を描く。

『ラバウルの迷宮』

鈴木 智

- ・終戦直後、ラバウル基地には10万人の無傷の日本兵がいた。彼らが収容された第九収容所では、暴動の噂が…。

『真珠配列』

岩井 圭也

- ・2029年、北京。常軌を逸した速さで進行する癌で有力政治家の息子が死亡、同様の癌での死亡事例が見つかる。

『さよならの保険金』

額賀 澄

- ・漁師だった父の遭難事故で、家族と就職先を一度に失った麻海は、保険調査員の叔父のもとに転がり込む。

『筒井康隆自伝』

筒井 康隆

- ・生まれて最初の記憶、作家デビュー、断筆宣言…。最後の文豪・筒井康隆が、自らの人生を濃密な文体でつづる。

『江戸商い解剖図鑑』

菊地ひと美

- ・江戸時代にしたためられた「町人考見録」。江戸時代の商人たちの豪勢な暮らしぶりをイラストで紐解く。

『そこに縁があるから』

新 千紹

- ・筆者の出身地は周囲の人々に「縁があるまち」と呼ばれていた。「縁がある」とは何を与えてくれるのだろうか。

『変わり者たちの秘密基地国立

民族学博物館』

ミンパクチャン

- ・世界最大級のコレクション数を誇る日本の至宝・国立民族学博物館、通称「民博(みんぱく)」。

『オーバードーズする子どもた

ち』

松本 俊彦

- ・子どもたちはつらい感情を和らげようと市販薬をオーバードーズし、いつしかそれを手放せなくなっている。

『余り毛糸の活用手帖』

成美堂出版編集部

『藤井なべ』

藤井 恵

『はじめてのキャップアート』

CAP AKIRA TOKYO